

発災直後の支援

—緊急援助資金により迅速な支援活動に着手—

2008年5月2日、ミャンマーを襲ったサイクロンは、デルタ地域に多大な被害をもたらしました。ジャパン・プラットフォームの緊急援助資金によって参加NGOが発災直後の緊急援助物資配布事業を開始しました。



支援物資を載せたボートの到着を待つ被災者(エヤワディ管区)



支援物資を荷降ろしするNGOスタッフと配布を待つ被災者(エヤワディ管区)



セーブ・ザ・チルドレン(SCJ)は子どもの権利を守るために、子どもたちがよりよい生活を送ることが出来るよう、世界のあらゆる場所で迅速かつ継続的なサポートを行っています。



ワールド・ビジョン(WV)はキリスト教精神に基づいて開発援助、緊急人道支援、アドボカシー活動(市民社会や政府への働きかけ)を行う国際NGOです。日本では約6万人の方々に支えられています。

医療支援 —巡回診療と医療インフラの修復—

支援が届きにくい遠隔地において巡回診療を行いました。また、破壊された医療施設を修復することで、医療サービスの向上を図りました。



ミャンマー人医療チームによる巡回診療の様子（エヤワディ管区）



修復・再建を行ったヘルスセンターをミャンマー保健省へ引き渡す式典（エヤワディ管区ボガレタウンシップ）

仮設住宅支援 —サイクロンで住居を失った人々へ—

サイクロンの強風と高潮によりたくさんの家が破壊されました。家を失った人々ができるだけ早く最低限の生活を取り戻すことができるように、3,000棟(2009年4月20日現在)の仮設住宅を建設しました。



©JEN/JPF

完成した仮設住宅と住民(エヤワディ管区ディダ工地区レイチョン村)



©JEN/JPF

仮設住宅(場所同上)



©JEN/JPF

完成した仮設住宅の前で(場所同上)

多様な物資配布事業 —必要とされる物資を必要とする人たちに—

食糧、飲料水、衣類、医薬品など、緊急に必要とされている物資の他に、建築資材や肥料など、その後の生活再建のために必要な物資も配布しました。



©AAR/JPF

ラプタ地区最南部
テンカンジー村に到着



©AAR/JPF

「今」を支援するための食糧配布、「将来」を支援するための肥料配布
(ラプタ地区テンカンジー村)



©AAR/JPF

半壊した診療所での聞き取り調査(ラプタ地区テンカンジー村)



©JAFS/JPF

サイクロン被災者へお米と衣服の配布(ヤンゴン市内)



難民を助ける会(AAR)は、緊急支援、障害者自立支援、地雷対策を中心に活動する国際NGOです。



社団法人アジア協会アジア友の会(JAFS)は、アジアに安全な飲料水(井戸を贈る運動)をアジア18カ国46地域に展開しているNGOです。

教育支援 -学校の修復と子どもたちの心のケア-

サイクロンの被害を目の当たりにして、その恐怖からふさぎ込んでしまった子どもたちがいました。破壊された校舎を修復し、課外活動の機会を設けることで子どもたちの笑顔が戻ってきました。



©KnK/JPF

サイクロン「ナルギス」で被災した子どもたち。学校が損壊し一時的に閉鎖していたが、支援によって修復され子どもたちは再び通学し始めた。(ヤンゴン管区シュピタータウンシップ)



©PWJ/JPF

完成した小学校(上)と、小学校で学ぶ子どもたち(下)。
(エヤワディ管区ボガレ地区)



©PWJ/JPF



©PWJ/JPF

復興をみすえた支援 -中長期的な支援を実施-

サイクロンは高潮と強風により人々から家屋や生計手段さえも奪っていきました。生計手段を確保すること、また将来同様な被害を再び被らないために防災対策を施すことは、復興に向けた重要な一歩となります。



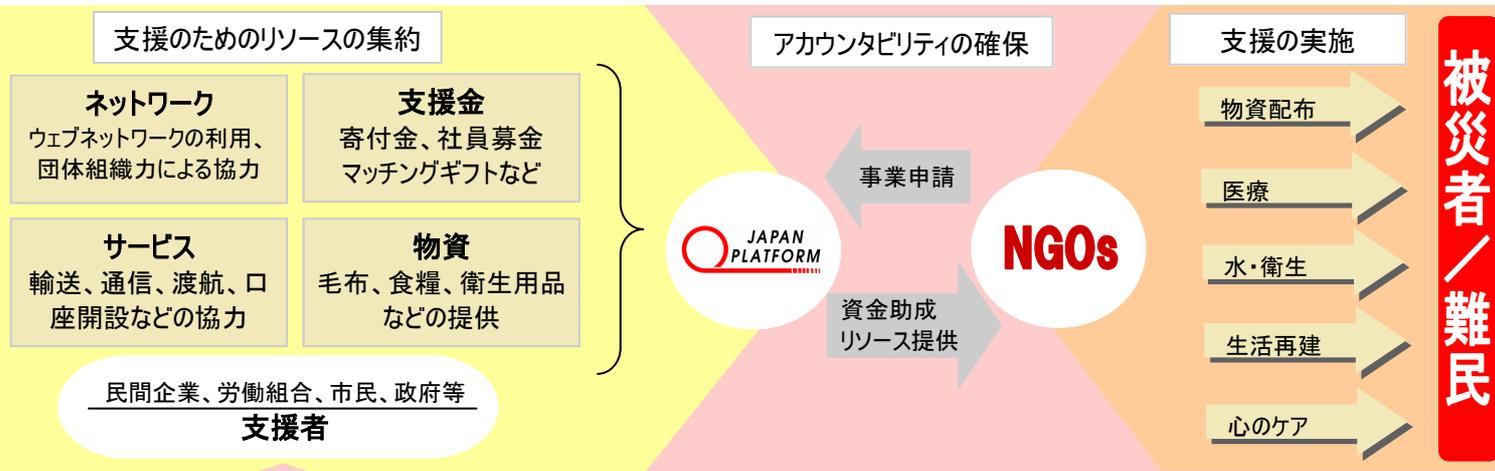
モデル住宅を使った地元大工に対する家屋補強の実地訓練（ヤンゴン市内）



生計手段であるボートを受け取る漁民たちとボートで遊ぶ子どもたち（エヤワディ管区）

JPFの役割 -申請された事業の適性審査から支援者への寄付金使途報告まで-

ジャパン・プラットフォーム(JPF)事務局は支援者の皆様よりいただいた資金を、活動実施NGOへ助成することを主幹業務とし、助成事業審査から、現地調査、支援報告に至るまでアカウンタビリティの確保を担っています。



JPF事務局の役割

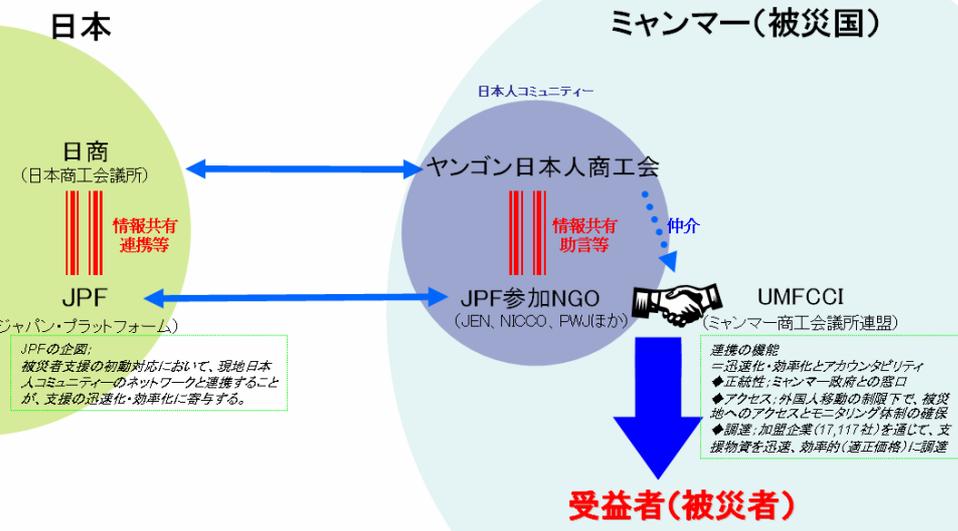


申請事業の審査 > 事業資金助成 > 支援全体の調整・進捗状況管理 > 現地調査・事業評価活動 > 報告書作成 > 支援者への報告

異業種間連携の促進・調整

日商とJPFの連携図

～ミャンマー・サイクロン被災者支援～



ミャンマー商工会議所連盟(UMFCCI)との連携

ミャンマーで支援事業を開始するにあたり、JPFは日本商工会議所の協力を得てミャンマー商工会議所連盟(UMFCCI)と連携することができました。このUMFCCIとの連携がミャンマー政府との各種調整、現地コミュニティとのパイプ作り等において、円滑な支援活動を行うための鍵となりました。

JPFミャンマー・サイクロン被災者支援概要

支援概要

*2009年4月20日時点(支援継続中)

総助成額	9.4億円	民間資金1.3億円、政府支援金8.1億円
総事業数	25事業	JPFモニタリング、物資輸送含む
事業実施団体数	11団体	
事業実施期間	347日(現時点)	図2(時系列支援図)
寄付者数	148社、499名	企業、団体、個人寄付者
支援形態	4形態	図3(協力形態別支援内容)

図2 時系列支援図 (団体、支援内容別)

*2009年4月20日時点(支援継続中)

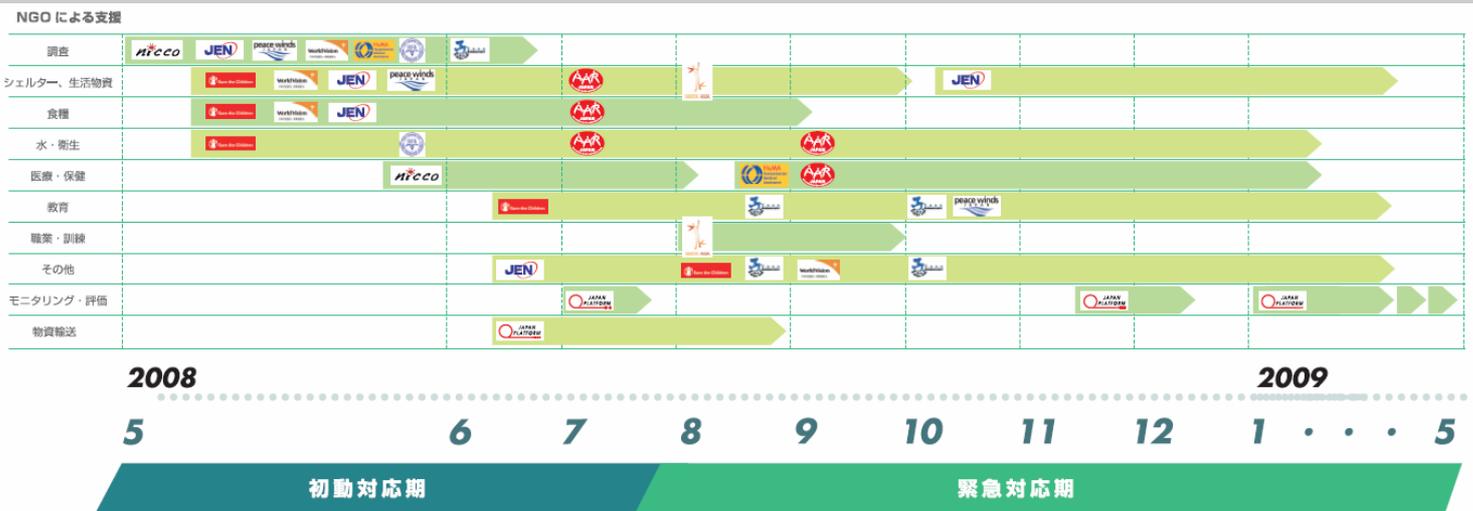


図3 協力形態別支援内容



ジャパン・プラットフォームの仕組み

NGO・政府・企業など市民社会の主要なパートナーが
市民と共に進める取り組みです

JAPAN PLATFORM



世界中の被災者へ



参加NGO 31 団体

(特活) 難民を助ける会【AAR】
(特活) ADRA Japan【ADRA】
(特活) BHNテレコム支援協議会【BHN】
(財団) ケア・インターナショナル ジャパン【CARE】
(特活) パレスチナ子どものキャンペーン【CCP】
(特活) 国境なき技師団
(特活) グッドネーブーズ・ジャパン【GNJP】
(特活) ハビタット・フォー・ヒューマニティ・ジャパン【HFHJ】
(特活) ホープ・インターナショナル開発機構【HIDA】
(特活) 災害人道医療支援会

(特活) ICA文化事業協会【ICA】
(特活) 国際平和協力センター【IPAC】
(特活) JADE-緊急開発支援機構【JADE】
(社団) アジア協会アジア友の会
(特活) 難民支援協会【JAR】
(特活) 日本紛争予防センター【JCCP】
(特活) 日本チェルノブイリ連帯基金【JCF】
(特活) ジェン【JEN】
(特活) 日本レスキュー協会
日本赤十字社

(特活) 国境なき子どもたち【KnK】
(特活) 日本国際民間協力会【NICCO】
(特活) ピースビルダーズ【PB】
(特活) 平和貢献NGOsひろしま【PEN】
(特活) ピースウィンズ・ジャパン【PWJ】
(特活) サポート.CC【SCC】
(社団) セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン【SCJ】
(特活) SEEDS Asia【SEEDS】
(特活) SNS国際防災支援センター【SNS】
(社団) シャンティ国際ボランティア会【SVA】
(特活) ワールド・ビジョン・ジャパン【WVJ】